

## モズク浮き流し養殖試験

中村 勇 次

### 1. 目的

現在、モズク養殖は、気象の影響で豊作・不作を繰り返しており、これがモズク単価の高騰・暴落を引き起こす原因となっている。今期は、特に前年からのモズク在庫のためにモズク単価が暴落しており漁家経営を圧迫している。今後は、安定的に生産できる技術の開発と計画生産が緊急かつ重要な課題である。既存の養殖方法では不安定な生産を余儀なくされているため、新たな試みとして、モズクの浮き流し養殖方法について検討したい。同養殖は、事前調査として久米島において試験的に実施した所、その年は不作の前兆が見られたにもかかわらず、1枚あたりの収量が比較的增加したことから生育不良対策としても有効ではないかと思われた。これらの知見を元に、モズク半浮動浮き流し養殖試験を実施したので報告する。

### 2. 方法

モズク浮き流し養殖試験は、石川市漁協伊波モズク養殖グループに協力を依頼し、伊波氏の漁業権を利用して試験を行うこととした。浮き流し養殖は、網を1枚単位で浮かせる半浮動式浮き流し養殖と網を50~100枚単位で組み合わせて浮かせる全浮動式浮き流し養殖の2通りの方法を考えているが、モズク養殖前期は半浮動式浮き流し養殖、後期に全浮動式浮き流し養殖を試みることにした。また、事前の漁場調査で、今まで使用されていなかった沖側の底質がウール（サンゴ礫）の場所を新たに苗床として使用することとした。

### 3. 結果

伊波氏は、11月頃から普及センターが配布

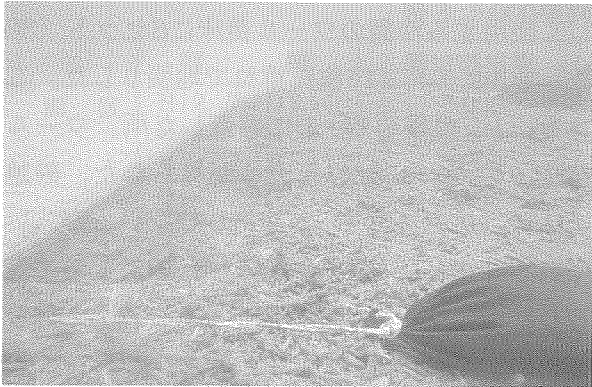
したオキナワモズクを培養していたため、種付けは12月中旬から培養と母藻により行った。12月末に種付けした16セット（80枚）の網を、今まで行っていた浅場の砂地苗床に10セット（50枚）を2セット（10枚）重ねて5列地張り、新しく使用する沖側のウール苗床に6セット（30枚）を3セット（15枚）重ねて地張りした。これを、1ヶ月後の1月末に調査した所、ウール苗床でのみ2~5mmの芽出しが見られた。砂地苗床は、12月末から3回沖出ししているが、いずれも芽出しは見られなかった。3月上旬に調査した所、ウール苗床の網では芽がだいぶ伸びており、1~4cm程になっていた。この時、網を綿状の雑藻が覆っていたが、この雑藻は時期がくれば落ちていくのでもう少し藻体を伸ばして、4月に入ってから浮き流し養殖に移行することにした。

### 4. 考察

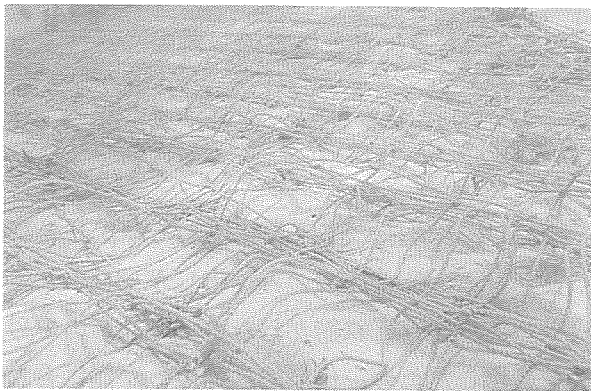
今回は、2カ所の苗床を使用して沖出しを行ったが、ウール苗床でのみ芽出しが見られた。ウール苗床では、鉄筋が打たれていないので砂袋を使用したため、作業的に沖出しが間に合わず、砂地苗床へ多くの網を沖出しした。しかし、砂地苗床は流れ藻が多く囲い網をしているにもかかわらず、地張りしている網に雑藻が絡んでしまい、環境的にも良くなかった。次回からはウール苗床でのみ沖出しを行う予定である。



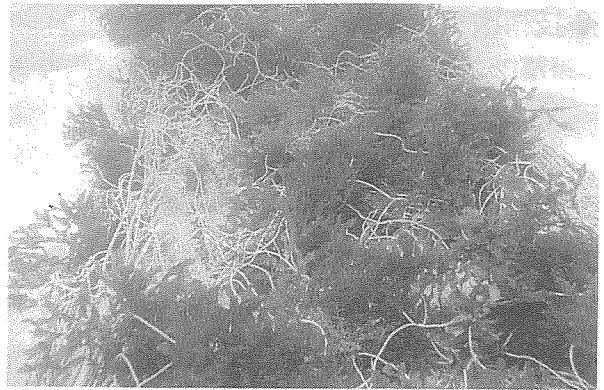
①12月末に沖出しした沖側ウール苗床での沖出しの様子。



②地張りした網は、砂を詰めた土嚢で固定した



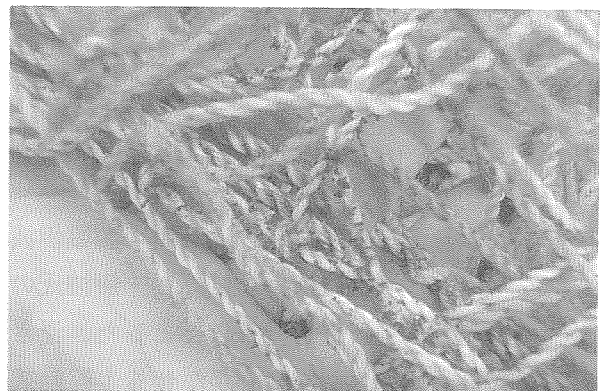
③1月末の浅場の砂地苗床の様子。芽出しは見られなかった。



④砂地苗床では、流れ藻が多く、各所で網に絡んでいた。



⑤1月末の沖側ウール苗床での網の様子。



⑥網からの発芽状態。2~5mmの芽出しが見られた。